

小泉賞受賞者一覧表

日本寄生虫学会

回数	年 度	氏 名	所 属	受 賞 研 究 業 績
1	昭和 29 年	村上信之 竹本常松他	大阪大学薬学部教授	海人草有効成分の研究
2	昭和 30 年	松村龍雄	群馬大学教授	蛔虫感染予防の研究
3	昭和 31 年	沢田 勇	奈良学芸大学助教授	宿主体内における櫃原条虫の発育について
4	昭和 32 年	森下哲夫	岐阜医科大学教授	TM 法による寄生蠕虫症の診断に関する研究
5	昭和 33 年	山下次郎	北海道大学教授	エキノコッカス症に関する研究
6	昭和 34 年	大森南三郎	長崎大学・風土病研究所 所長	蚊体内におけるバンクロフト糸状虫の発育に 関する研究
7	昭和 35 年	久米清治 大石 勇	東京農工大学教授	糸状虫の発育、仔虫定期出現性に関する研究
8	昭和 36 年	横川宗雄	千葉大学教授	肺吸虫の皮内反応に関する研究
9	昭和 37 年	吉田幸雄	京都府立医科大学講師	鉤虫の感染経路と発育に関する研究
10	昭和 38 年	大鶴正満	新潟大学教授	人畜の毛様線虫に関する研究
11	昭和 39 年	大保不二夫	鹿児島大学教授	鉤・蛔虫の生化学的研究
12	昭和 40 年	水野哲夫	千葉大学助教授	アメリカ・ツビニ両種鉤虫の感染経路に 関する実験的研究
13	昭和 41 年	猪木正三	大阪大学・微生物病研究 所々長	トリパノソーマの AK 型に関する遺伝学的研究
14	昭和 42 年	石崎 達	国立予防衛生研究所部長	寄生虫抗原による皮内反応の基礎的研究
15	昭和 43 年		該当者なし	
16	昭和 44 年	稲臣成一	岡山大学教授	寄生虫の微細構造
17	昭和 45 年	尾崎文雄 岡 好万	徳島大学教授	トリコモナス症の感染防禦免疫に関する研究
18	昭和 46 年	沢田利貞	群馬大学教授	寄生虫症診断用抗原の精製に関する研究
19	昭和 47 年	大家 裕	順天堂大学教授	寄生蠕虫におけるリンゴ酸代謝とその生理的 意義
20	昭和 48 年	尾辻義人	鹿児島大学講師	蠕虫類生殖細胞の微細構造に関する研究
21	昭和 49 年	該当者なし		
22	昭和 50 年	辻 守康	広島大学教授	寄生蠕虫類の免疫電気泳動に関する研究

回数	年 度	氏 名	所 属	受賞研究業績
23	昭和 51 年	吉村裕之	金沢大学教授	肝吸虫の生物学的ならびに病理学的研究
24	昭和 52 年	林 久子	順天堂大学講師	蛔虫のチトクローム系の出現におよぼす酸素分圧の影響
25	昭和 53 年	該当者なし		
26	昭和 54 年	該当者なし		
27	昭和 55 年	小島荘明	信州大学教授	IgE 産生機構に及ぼす寄生虫感染の影響に関する研究
28	昭和 56 年	竹内 勤	慶応義塾大学講師	嫌気性原虫の生理・生化学的研究
29	昭和 57 年	多田 功	熊本大学教授	オンコセルカ症の研究
30	昭和 58 年	藤田紘一郎	長崎大学教授	フィラリア症における Ig E 抗体産生とその病態に関する研究
31	昭和 59 年	吉村堅太郎	秋田大学教授	広東住血線虫幼若成虫を外科的に移植された圃有宿主と非固有宿主における骨髓、末梢血ならびに肺組織の好酸球応答について
32	昭和 60 年	林 正高	甲府市立病院 神経内科部長	脳日本住血吸虫症の臨床とその病因に関する実験的研究
33	昭和 61 年	石井 明	岡山大学教授	日本住血吸虫感染マウスの免疫病理研究
34	昭和 62 年	鈴木 守	群馬大学教授	マラリア間接蛍光抗体法の研究
35	昭和 63 年	神谷正男	北海道大学助教授	エキノコックス近縁種間競合モデルの開発と応用
36	平成元年	青木 孝	順天堂大学助教授	トリパノソーマ科原虫の核酸前駆体合成に関する研究
37	平成 2 年	田辺和桁	大阪工業大学助教授	マラリア原虫表面抗原の分子生物学
38	平成 3 年	渡辺直熙	東京慈恵会医科大学 助教授	Ig E による蠕虫感染防御に関する研究
39	平成 4 年 1992	平井和光	鳥取大学教授	マンソン裂頭条虫擬充尾虫が産生する成長ホルモン様物質の特性
40	平成 5 年 1993	橋口義久	高知医科大学助教授	Leishmania mexicana 及び L. major-like に起因するアンデス高地のリーシュマニア症 (Uta 症)
41	平成 6 年 1994	矢野明彦	長崎大学教授	トキソプラズマ感染細胞 MHC クラス 1 分子による抗原提示機構の解析
42	平成 7 年 1995	阿部達也	秋田大学助教授	IL - 3 投与による腸管寄生虫防御と粘膜肥満細胞の役割に関する研究
43	平成 8 年 1996	姫野國祐	徳島大学教授	マウストキソプラズマ感染症における宿主 HSP65 の発現機序
44	平成 9 年 1997	吾妻 健	帯広畜産大学助教授	寄生蠕虫類の分子系統分類学的研究
45	平成 10 年 1998	仙道富士郎	山形大学・教授	寄生虫感染におけるサイトカインの役割に関する研究
46	平成 11 年 1999	青木克己	長崎大学・教授	ケニアにおける寄生虫病制圧に関する研究
47	平成 12 年 2000	名和行文	宮崎医科大学・教授	寄生虫症とアレルギーの相関についての研究

回数	年 度	氏 名	所 属	受賞研究業績
48	平成 13 年 2001	有菌直樹	京都府立大学・教授	線虫感染におけるマスト細胞の動態と病態の形成に果たす役割りに関する研究
49	平成 14 年 2002	北 潔	東京大学大学院・ 医学系研究科教授	寄生適応におけるミトコンドリアの多様性の意義
50	平成 15 年 2003	太田伸生	名古屋市立大学大学院・ 医学研究科教授	住血吸虫との多重感染宿主における免疫応答修飾と生体防御機能の変化
51	平成 16 年 2004	堀井俊宏	大阪大学微生物病研究所 ・教授	SE36 熱帯熱マラリアワクチンの実用化に向けた基礎研究
52	平成 17 年 2005	片倉 賢	北海道大学大学院・教授	リーシシュマニアの ABC トランスポーターの機能と薬剤耐性機構に関する研究
53	平成 18 年 2006	鳥居本美 坪井敬文	愛媛大学医学部寄生虫病 態学分野・教授 愛媛大学無細胞生命科学 工学研究センター・教授	三日熱マラリア伝搬阻止ワクチンの研究
54	平成 19 年 2007	綿矢有佑	岡山大学院自然科学研究 科(薬学系)医薬品情報学 講座教授(兼任 薬学部)	寄生虫感染症治療薬の創製研究
55	平成 20 年 2008	野崎智義	群馬大学大学院医学系 研究科 教授	腸管寄生原虫赤痢アメーバの病原機構の解明に関する研究
56	平成 21 年 2009	中西憲司 善本知広	兵庫医科大学教授 兵庫医科大学准教授	IL-18 の寄生虫感染防御機構の研究
57	平成 22 年 2010	狩野繁之	国立国際医療センター研 究所熱帯医学・マラリア研 究部 部長	マラリア原虫の分子・遺伝構造解析の臨床・フィールド疫学への応用
58	平成 23 年 2011	辻 尚利	独立行政法人農業・食品産 業技術総合研究機構動物 衛生研究所 主任研究官	マダニの吸血と病原体伝播の分子機構に関する研究
59	平成 24 年 2012	伊藤 亮	旭川医科大学教授	人獣共通条虫症（囊虫症、エキノコックス症）に関する免疫診断法の研究
60	平成 25 年 2013	河津信一郎	帯広畜産大学原虫病研究 センター教授	マラリア原虫の酸化ストレス応答メカニズムの解明に関する研究
61	平成 26 年 2014	平山謙二	長崎大学 熱帯医学研究所 教授	日本住血吸虫症のワクチン／薬剤開発を目指した免疫遺伝学研究
62	平成 27 年 2015	由井克之	長崎大学大学院医歯薬学 総合研究科 教授	マラリア原虫感染に対するT細胞免疫応答の研究
63	平成 28 年 2016	該当者なし		

回数	年 度	氏 名	所 属	受賞研究業績
64	平成 29 年 2017	丸山治彦	宮崎大学医学部・教授	ゲノム情報に基づいたベネズエラ糞線虫の寄生機構の解明
65	平成 30 年 2018	川合 覚	獨協医科大学・教授	サル感染モデルによるマラリアの病態研究
66	2019	金子 修	長崎大学熱帯医学研究所・教授	マラリア原虫の赤血球侵入機構の研究
67	2020	山本雅裕	大阪大学・教授	トキソプラズマ・宿主間相互作用の寄生虫免疫学的解析
68	2021	久枝 一	国立感染症研究所寄生動物部・部長	寄生虫による免疫制御に関する研究
69	2022	濱野真二郎	長崎大学熱帯医学研究所・教授	寄生虫に対する免疫応答の解明と応用研究